

## ■ 地域再生計画の事業評価について

NO	事業名	事業費等 単位：円	評価指標及び実績値				事業内容	推進会議 からの意見	評価
			指標	指標値	単位	実績値			
1	<b>■ バイオガスプラント余剰熱を利用したハウス野菜栽培事業</b>  本町の畑作農業は、従業員等の雇用は増えたものの、冬から春にかけての農閑期の雇用機会は少なく、生計が安定せず、働く場を求め町外への人口流出が課題となっている。バイオガスプラント余剰熱を有効活用した農閑期のハウス野菜栽培プロジェクトを実施することで、新たな農産物の生産起点として、雇用機会の創出、労働人口の転出抑制につなげる。  ※地方創生交付金の利用状況 【推進交付金】（H28～H30） ・ハウス野菜栽培作業員の雇用 ・試作・実証経費（種子・苗等の購入、その他必要経費） ・栽培品分析費（食品検査、野菜成分分析等） ・栽培管理指導費 【拠点整備交付金】（H28） ・野菜ハウス施設の建設	事業費 4,652,900	①新たな雇用の創出人数	H28: 0 H29: 16 H30: 26 R1: 36	人	0 1 1 1	R1については、新たに11種の作物を増やし研究・検証することで販売収入につながった。 R2については障害者雇用を行い、農福連携を推進し、雇用実績を伸ばそうと考えている。また、R1では町内（JA・道の駅）を基本に販売を行ってきたが、今後は町内に限らず町外への販売も検討している（学校・子ども園給食へは継続的に出荷を行う）  ※本事業に設定したKPIは、試験栽培が完了し、本格的な運営に至ることができた場合の想定で設定しているため、一部指標については現状と乖離してしまっている。ただ、本事業の野菜栽培は他地区でも前例のない先駆的な試みであり、かつ使用する養液や栽培方法を模索しながらの事業実施であったため当初計画よりも事業の進捗が遅れている状態にある。今年度、上記のような新たな試みも行い、本格運営に至れば更なる効果が期待できると見込んでいるため、引き続き本事業の推進を行っていきたいと考えている。		評価指標の達成状況について現状と乖離してしまっているが、生産量の向上は見られ新たな品種の試験なども行っている状況である。また、本年度からは「農福連携」といった単純な農業という視点以外からも検討を進めている。そのため、推進会議からの意見を元に、改善に向けて様々な視点から検討を行い、事業の確立を目指していく。
			②農業品販売収入金額	H28: 0 H29: 10,000,000 H30: 30,000,000 R1: 60,000,000	円	0 0 230,241 488,268			
			③新たな農産物の生産種目数	H28: 0 H29: 5 H30: 10 R1: 12	品	0 3 12 23			
2	<b>■ 山村留学・英語教育推進による移住・定住促進事業</b>  昭和63年から山村留学制度を開始以降、延べ500人の小中学生を受け入れ、成長過程の中での体験活動や地域の小中学生との交流活動を通じて、思いやり・自主性・協調性・忍耐力等の豊かな心を育てている。また、幼小中高一貫教育によりグローバル化社会に対応する力を身につけるための英語教育を推進している。こうした特色ある環境を更に充実・発展させ、若い世代（親子留学）の移住・定住を進め、地域の人口増加を目指す。  ※地方創生交付金の利用状況 【推進交付金】（H28～H30） ・山村留学制度推進協議会活動補助事業 PR活動旅費（関東・関西） PR活動用チラシ印刷費 【拠点整備交付金】（H28） ・親子留学専用住宅の建設	事業費 1,412,006	①山村留学生・及び保護者等移住・定住定住者数（延べ）	H28: 100 H29: 105 H30: 110 R1: 115	人	99 102 114 100	R1については下記の事業を行った。  5月 山菜採取体験学習 7月 サマーキャンプ in うりまく 9月 ナイトクルーズ・星座観察会 10月 熱気球体験 11月 そば打ち体験 2月 然別コタンを楽しもう！ 3月 スキー体験学習（コロナ禍により中止）  R2については、コロナ禍により特に年度当初に実施できない事業もあったが、例年実施している3泊4日のキャンプを日帰りの行事に分けたり、募集方法を変えたり、密になる場面を避けたりと、できる限り事業を実施していく。 また、次年度の募集活動についても、コロナ禍の状況によるが、例年行っている東京や大阪での説明会などの開催は難しいが、オンラインでの方策を模索して実施する。	別添のとおり	評価指標について達成できていない項目もあるが、地域の人口増加に一定量の効果がみられるため、引き続き継続して事業を実施していく。
			②山村留学生人数	H28: 15 H29: 18 H30: 22 R1: 23	人	8 16 16 17			
			③実用英語技能検定3級以上合格者率（中学3年生）	H28: 51 H29: 52 H30: 53 R1: 54	%	33 57 53 55			
			④親子留学による児童・生徒数	H28: 7 H29: 8 H30: 10 R1: 11	人	7 2 7 7			
			⑤親子留学生及び保護者等移住・定住者数	H28: 14 H29: 16 H30: 21 R1: 23	人	14 4 9 12			
			⑥留学生全体に占める親子留学生の割合	H28: 46.67 H29: 50.00 H30: 52.94 R1: 55.56	%	46.67 25.00 33.33 41.17			
3	<b>■ 十勝アウトドアDMO事業</b> （帯広市、鹿追町連携事業）  十勝アウトドアブランディング事業（地方創生加速化交付金事業）を発展させ、十勝の雄大な自然空間を最大限活用していくため、十勝特有のアウトドアに特化したDMOを確立するとともに、アウトドアによる特別な時間や新しいライフスタイルを提案し、十勝における新たな観光ブランドの創出を目指す。また、アウトドアに精通した人材の育成・確保を行っていく。  ※地方創生交付金の利用状況 【推進交付金】（H28～H30） ・アウトドアガイド人材育成事業補助事業 アウトドアガイド育成のためのカリキュラムの実施	全体事業費 32,570,000  うち 鹿追町分 事業費 1,000,000  交付金 500,000	①十勝の観光消費額（増加額）	H28: 4,163,540 H29: 1,973,080 H30: 1,973,080 R1: 1,973,080	千円	13,302,242 9,405,142 3,736,064 -1,428,680  ※1	本事業は帯広市との連携事業となっており、鹿追町はアウトドアに精通した人材の育成・確保として、然別湖ネイチャーセンターでアウトドアガイド育成のためのカリキュラムの実施・検討を行っている。 R1については新メニュー考案として2講座、インバウンド対策として1講座、野外活動術として7講座の10講座を実施した。 R2についてはコロナ禍の中、人材育成メニューも新たな生活様式などを取り入れた内容になるよう現在整理検討中である。		増加額の累計では評価指標について達成しているため、アウトドア人材の確保に向けて引き続き計画通り事業を実施していく。
			②十勝のアウトドア観光消費額（増加額）	H28: 21,001 H29: 21,631 H30: 22,280 R1: 22,948	千円	-105,648 186,217 -4,944 33,920  ※2			

※1、2 詳細については次ページに掲載します。

十勝アウトドアDMO事業 KPI進捗状況

	当初	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	増分の累計	
	H27.3	H28	H29	H30	H31	H32		
KPI① 十勝の観光消費額(単位:千円)								12,055,860
目標値 A	172,444,180	176,607,720	178,580,800	180,553,880	182,526,960	184,500,040		
増分	-	4,163,540	1,973,080	1,973,080	1,973,080	1,973,080		
実績値 B	-	185,746,422	195,151,564	198,887,628	197,458,948			
差分	172,444,180	13,302,242	9,405,142	3,736,064	-1,428,680			
B-A	-	9,138,702	16,570,764	18,333,748	14,931,988			
B/A	-	105.2%	109.3%	110.2%	108.2%	0.0%		
KPI② 十勝のアウトドア観光消費額(単位:千円)								111,497
目標値 A	700,037	721,038	742,669	764,949	787,897	811,534		
増分	-	21,001	21,631	22,280	22,948	23,637		
実績値 B	-	594,389	780,606	775,662	809,582			
差分	700,037	-105,648	186,217	-4,944	33,920			
B-A	-	-126,649	37,937	10,713	21,685			
B/A	-	82.4%	105.1%	101.4%	102.8%	0.0%		

## ■令和2年度鹿追町まち・ひと・しごと創生推進会議 意見一覧

1. バイオガスプラント余剰熱を利用したハウス野菜栽培事業 2. 山村留学・英語教育推進による移住・定住促進事業

3. 十勝アウトドアDMO事業

意見	回答
<p>1 ・栽培品種の拡大の検討（きのご類の通年栽培等）</p>	<p>・現在、品種拡大の検討は行っており、空心菜やバニラピーンズ、エディブルフラワーなどの試験を行っている状況です。 きのご類の栽培についても、検討いたします。</p>
<p>1 ・この施設利用での収支状況が知りたい</p>	<p>・最新の収支状況は以下のようになっています。 R1収入： 488,268円 R1支出：4,652,922円  現在は道の駅しかおい、Aコープ、帯広地方卸売市場（株）、また学校給食、町外イベント等にて野菜を出荷しております。</p>
<p>-</p>	<p>-</p>
<p>-</p>	<p>-</p>
<p>1 ・現在のハウスの規模で採算は難しい。生産量とコストのバランスが取れない。設備的にも問題あり。民営運営は難しい。</p>	<p>・今のままでは採算などをクリアすることは難しい状況です。 ただ、毎年生産量の向上が見られ、現在新たな品種の試験なども行っています。コストを抑えながら対処し、成功事例との相違点なども調査をしていきたいと考えております。 経営状況を安定させることが前提ではありますが、将来的には起業や委託など、新たな雇用に結び付けたいと考えています。 また、現在は障害者雇用を行い「農福連携」を実践していますので、そういった視点からも検討を続けていきます。</p>
<p>1 ・現在のコロナ禍の影響で都会から地方へ移住したい人はいると思う。ハウス野菜事業を単に農業と考えないで地方において起業をする人を見出すきっかけになればいいと思う。 2 ・若い世代の増加には働く場所が必要である。鹿追には企業が少ない。産業の発展が移住・定住への第一歩と考える。 3 ・ランニング・サイクリング・スイミングの大会の実施。とから検定の充実等、観光につながることに力を入れること。</p>	<p>1 ・移住、そして雇用の受け入れとなるように、しっかりと事業を安定させていきたいと考えています。 また、現在は障がい者雇用を行っており「農福連携」を実践しています。「単純な農業と考えない」という視点は重要かと思しますので、今後もそういった視点を踏まえつつ、収支の改善を図っていききたいと考えています。 2 ・「働く場所」の創出は本町の大きな課題です。第2期鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、4年間しっかりと対策を進めていききたいと考えています。 3 ・町内で開催される各種スポーツ大会、文化大会並びに研修会等の来町者に向けた観光情報の発信及び取り込み、さらには鹿追町を取り上げた情報素材の2次活用による情報拡散など、観光振興につながり、きっかけになる素材はあまたに存在しております。 ご意見のような事業を含む様々な素材をいかに観光事業と結び付け、有効に活用するかが、広く観光振興につながると考えています。 これまでよりもアンテナを高くし、情報収集・発信、さらには活用について、他課との連携及び観光関連団体との協力により観光振興の強化につなげていききたいと考えています。</p>

<p>1          ・販売収入額が6千万と指標にあるが、現状と乖離してしまっているというが、「本格的な運営ができた場合の想定というか、数字が1ケタちがうのでは」?見直しが必要では。</p>	<p>・地域再生計画の指標値は、基本的に当初に設定した数値から下方修正ができないものとなっています。ご意見はもっともでありますので、指標値との乖離を少しでも少なくするために継続して検討していきます。</p>
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
<p>1          ・畑作従業員の通年雇用を実現し、労働力の安定雇用に繋げる為、バイオ施設余剰熟活用による冬季間雇用機会の創出は期待するが、経済事業として独立するためには、販売収入が増加した事の評価だけではなく、収支内容を検証し課題を明確にする必要がある。(再生産可能な経済合理性と販路構築に向けた品質・物量の確保に向けた生産拡大。既存町内畑作農家の生産額向上に結び付く運用の検討等が今後必要ではないか)</p>	<p>・収支内容をよく検証し、課題を明確にしながら進めることは、事業を進める上での必要なプロセスかと思っておりますので、しっかりと実践いたします。          また、現行の栽培スケジュールは冬季が繁忙期であり、季節従業員を受け入れることは十分に可能と考えています。          障がい者雇用も実践しており、経済事業としてだけではなく、農福連携の観点からも継続して進めていきます。</p>
-	-
-	-
-	-
<p>1          ・養液栽培の技術は企業内では相当に進歩しており、収穫に時間がかかりすぎてないか。          ・日持ちのしない野菜は、生産よりも販売に苦労する。          ・「新しい農産物の生産拠点」を目指しているが、販売を含めプロの指導助言が必要ではないか。</p>	<p>・収穫に時間を要しているということは否めませんので、養液栽培を実践している企業への視察などを検討し、対応を考えていきます。          ・現在栽培している作物は試験段階であり、販売効率性も含めて調査をしている状況です。ご提案の通り、プロの指導助言も含めて本事業の発展に資する対策を切れ目なく検討します。</p>
<p>1          当初計画よりも事業の進行が遅れているが、次年度以降の推進策と進捗の管理を継続願いたい。</p>	<p>・ご意見のとおり、当初の指標値と実績が大きく乖離している状況ですので、改善に向けてあらゆる対策の検討をしていきます。</p>
-	-
-	-
-	-
-	-